

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン取組事業の評価等について（平成29年度実施事業）

資料2

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由					
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町		
1 圏域全体の経済成長のけん引	ア	産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等	3	産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等	圏域全体の経済成長のけん引等に係る連携事業数	事業	14	13	92.9	H35年度までに、4事業を追加することとしており、計画期間前半の2年間で1事業を追加する。 H29年度には、新規・拡充事業の検討を行ったが、当該分野に係る新規事業の追加には至らなかった。	A	A	A	A	B	A	B	A	ビジョン懇談会を年間2回開催した。今年度は、進捗管理のためのKPIの設定とそれに基づく評価を開始したが、ビジョンの「圏域全体の経済のけん引」の分野に係る新規・拡充事業について、新規事業の追加には至らなかった。	【さぬき市】産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等は非常に意義があると思われるが、取組が進んでいないため。 【土庄町】産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等が適正になされた。 【小豆島町】各連携市町から委員が参加し、連携協力できた。 【三木町】今後も産学金官民一体となって連携や交流をしていく必要がある。 【直島町】ビジョン懇談会など積極的に参加できた。 【綾川町】産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等が適正になされた。	
	イ	産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	4	中小企業経営力強化事業	講習会等受講者数	1年間に開催した講習会等の受講者数	人	2,350	2,091	89.0	受講者数については第6次総合計画の指標にもなっており、目標設定は総合計画と同数にしている（H26年度実績2271人を現況値として毎年度25人増）。 H29年度は、2,000人以上の受講を得ることはできたが、毎年度相当数の受講があり、見直しの余地がないメニュー（確定申告相談会等）の受講者数が昨年度より減ったことにより、目標値には届かなかった。	A								H29年度は、「プレゼン資料の作り方」など、年16回の講習会を開催した。 前年度と同じ事業費（共催負担金1,600千円）で開催回数を維持し、企業ニーズに合わせた内容で実施したことにより、目標に近い受講者数は確保できた。	【土庄町】実績あり 【小豆島町】実績なしのため
	ウ	地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	5	ブランド農産物育成支援事業	たかまつ食と農のフェスタにおける出展者販売額	たかまつ食と農のフェスタを開催し、連携市町からも出展してもらい、地域の特産物のPR及び販売促進を図る。	千円	9,400	9,621	102.4	○H28年度の目標設定方法：過去の実績を基に目標値を設定している。 ○目標値に対する実績の理由：たかまつ食と農のフェスタの来客数も多く、目標額以上の実績になった。	A	B	B	B				B	たかまつ食と農のフェスタを開催し、連携市町からも出展の協力を得て地域の特産物のPR及び販売促進を図った。	【さぬき市】たかまつ食と農フェスタにさぬき市から3団体の出展があり、多くの消費者の方に対して特産品のPR及び販売促進が図られた。 【東かがわ市】東かがわ市農作物トップセールスを実施したが、連携したPRには至っていない。 【土庄町】圏域と連携を図りつつ運営及び情報発信を行った点は評価。今後の継続的な展開について課題。 【綾川町】同時期に町のイベント実施もあり、たかまつ食と農のフェスタに参加できなかった。
I 戦略的な観光施策		7	国内誘客促進事業	観光施設等利用者数	市内の主な観光施設等利用者数	千人	6,800	6,818	100.3	【目標の設定方法】首都圏における航空国内定期路線利用者を対象に本市をPRすることによって、本市への誘客につなげる。 【目標値に対する実績の理由】本市を効果的にPRすることにより、入込客数を増加させることができた。	B	B	D	B	B	B	B	B	航空会社と連携し、様々な媒体を通してのPR、羽田空港でのPRイベント等を行った。また、東京モレールの車両内窓上に広告を掲出し、本市のPRを行った。	【さぬき市】協力体制についてのプランができていないため 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】観光やイベント情報提供・発信により圏域の観光振興を図っている。引き続き圏域及び地域と連携し、観光振興に努めたい。 【小豆島町】こうまつりにおいて、県・高松市・小豆島町でジャンボフィーによる、関西圏からの誘客を進めるPR活動を共同で行い、誘客活動が図れた。 【三木町】観光資源の再発掘と観光事業や情報発信等の見直しを進め、高松市と近隣市町との連携を強化していくことで改善を図る必要がある。 【直島町】違法駐車を取り締まりや、イルミネーションの実施での受け入れ環境の整備が図られた。 【綾川町】実績なし。	
		8	海外誘客促進事業	香川県外国人延べ宿泊数	香川県内の外国人延べ宿泊者数	人	400,000	453,460	113.4	【目標の設定方法】政府目標である「訪日外国人数を2020年に4000万人」の伸び率を上回る宿泊者数の増加を目指す。 【目標値に対する実績の理由】平成29年も前年と同様に香川県の外国人延べ宿泊者数を伸ばしており、目標値よりも多くの外国人観光客が本市を訪れた。	A	B	A	B	B	B	C	B	高松空港と定期航路で結ばれた台北、上海、ソウル、香港からの観光客を誘致するため、公益社団法人香川県観光協会に対し、補助を行うとともに、公益財団法人 高松観光コンベンション・ビューローが実施する誘客事業に対し補助を行った。 平成29年の香川県の外国人延べ宿泊客数は453,460人泊（速報値）となっており、対前年比+26.5%で、5年前（平成24年）からの伸び率が全国1位の10.52倍を記録した。	【さぬき市】協力体制についてのプランができていないため 【東かがわ市】香港にて総領事館や観光局へ営業を行い誘客促進を図った。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】インバウンド、特に中国、台湾、韓国を中心とした海外観光客は近年、増加の一途をたどり、圏域の観光業を中心とした経済効果は非常に高いと思われる。また、インバウンドに向けた外国語標記等の対策については今後も整備を強化する必要がある。 【三木町】観光資源の再発掘と観光事業や情報発信等の見直しを進め、高松市と近隣市町との連携を強化していくことで改善を図る必要がある。 【直島町】外国人観光客の増加を実感することができるが、本事業の成果を実感できない。 【綾川町】県が発行した中国語版の観光パンフレットに加え、中調エリアでH29年度に英語版の観光パンフレットを作成した。	
		9	国内外観光客向け情報発信事業	観光施設等利用者数	市内の主な観光施設等利用者数	千人	6,800	6,818	100.3	【目標の設定方法】本事業に取り組むことで、圏域への誘客を促進し、観光施設利用者の増加を図るもの。 【目標値に対する実績の理由】塩江地区の施設が休館した影響もあったが、前年度実績に近い利用者数を達成することができた。	B	B	C	B	B	B	C	B	外国人向けホームページをリニューアルし、SNSとの連携やスマホやタブレットの表示最適化に対応した。	【さぬき市】協力体制についてのプランができていないため 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】特にインバウンド対策の整備を進めているが、その効果についての検証が十分に図れていない。 【小豆島町】国内観光客への情報提供はほぼ満足のいく発信ができていていると思うが、インバウンド対策は、瀬戸内国際芸術祭などで少しずつ整備が整っているが、まだまだ改善の余地がある。 【三木町】観光資源の再発掘と観光事業や情報発信等の見直しを進め、高松市と近隣市町との連携を強化していくことで改善を図る必要がある。 【直島町】具体的な成果を実感できない。 【綾川町】観光協会ホームページを整備したものの、会員の情報をより多く提供するまでには至らなかった。	

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）					連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由			
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町			小 豆 島 町	三 木 町	直 島 町
	10	瀬戸内国際芸術祭推進事業	-	-	-	-	-	-	瀬戸内国際芸術祭2013の来場者数を基に目標値を算出する。会場毎に基準施設を設け、その来場者数を集計し、実績値とする。	A			A	A		A	ART SETOUCHI 2017の開催と、瀬戸内国際芸術祭2019開催に向けた準備を行った。	【土庄町】他県からの観光客はもとより、国外からの来場者が増えた。瀬戸内国際芸術祭の知名度がより広く浸透している。 【小豆島町】瀬戸内国際芸術祭の既存作品やアーティスト等の関係を継続することで、より地域に根差した取り組みとなっている。 【直島町】具体的な成果を実感できない。
	11	新たな観光プランの企画、販売等	観光施設等利用者数	市内の主な観光施設等利用者数	千人	6,800	6,818	100.3	【目標の設定方法】首都圏における航空国内定期路線利用者を対象に本市をPRすることによって、本市への誘客につなげる。 【目標値に対する実績の理由】本市を効果的にPRすることにより、入込客数を増加させることができた。	B	B	C	C	C	B	C	昨年に引き続き、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の観光振興のため、(公財)高松観光コンベンション・ビューローが造成する「ぶち旅プラン(着地型旅行商品)」の企画・販売事業を支援した。  コース数 8コース 参加者数 86名	【さぬき市】協力体制についてのプランができていないため 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】特有の観光資源やイベント等を観光客誘致に活用しているが、もう一つの役割である高松観光コンベンション・ビューローの賛助会員等として、同財団の実施する企画・販売事業の支援ができていない状況であり、その支援方法等どのような形で連携できるかが課題である。 【小豆島町】実績なしのため 【三木町】観光資源の再発掘と観光事業や情報発信等の見直しを進め、高松市と近隣市町との連携を強化していくことで改善を図る必要がある。 【直島町】具体的な成果を実感できない。 【綾川町】実績なし。
	12	イベント交流の促進	まつり・イベント入込み客数	観光客誘致に資するまつり・イベント実行団体発表の入込み客数をカウント	人	1,305,700	1,043,351	79.9	【目標の設定方法】高松まつりの在り方を検討することで、圏域への誘客を促進し、まつり・イベント集客数増加に繋げる。 【目標値に対する実績の理由】高松冬のまつりなどが廃止になったため、前年度入込客数を上回ることができなかった。	A	B	B	B	B	A	C	瀬戸・高松広域連携中枢都市圏で最大級のイベントである高松まつりの在り方検討委員会を設置し、協議を行った。地域のプロスポーツチームとの連携など様々な取り組みを実施することとした。	【さぬき市】協力体制についてのプランができていないため 【東かがわ市】圏域内に「引田ひなまつり」や「風の港まつり」などのイベント周知宣伝活動を行った。 【土庄町】観光やイベント情報提供・発信により圏域の観光振興を図っている。引き続き圏域及び地域と連携し、観光振興に努めたい。 【小豆島町】圏域全体で観光振興を行うことで、全体のPRにつながる。 【三木町】地域の魅力や知名度アップによる観光客誘致等の経済波及効果が期待される。 【直島町】具体的な成果を実感できない。 【綾川町】主基斎田お田植え祭りの2週間前に、交流がある悠紀斎田お田植え祭り(愛知県岡崎市)の際に、綾川町の特産品を現地で販売した。あやがわサマーフェスティバルにおいて、出店団体が配向を凝らして地元の特産品等を販売したりした。ただ、来場者が予想よりも多く、接触事故や周辺エリアが渋滞するなど課題もあった。イベントについては、ホームページ等に掲載して周知を図った。
	13	デリバリーアーツ事業	鑑賞者数	参加を希望される協力団体の提供場所の規模により、鑑賞者数に偏りがあるため、鑑賞者数では判断し難い。限られた予算の中で、公演の質の維持と事業を継続していくことを重点に実施する。	人	1,900	2,050	107.9	事務事業評価と合わせた鑑賞者数で目標設定を行う。 コミュニティセンターなどの大規模な場所よりも老人福祉施設など小規模な場所での開催が増えているため、鑑賞者数が目標値に達しなかったが、開催した団体からは好評であるため再度実施したいという要望が多く、満足度は高いといえる。市民の身近なところで文化芸術に触れる機会を提供するという事業目的も達成している。	A	B	B	C				■開催回数：至16回(うち東かがわ市1回) ■鑑賞者数：2,050人(うち東かがわ市80人) 落語、瀬戸フィルアンサンブル演奏、和太鼓、金管五重奏、あやつり人形劇、尺八コンサート及びサーカスカラバンのメニューで実施。連携市町に呼びかけ、さぬき市でも実施予定だったが、中止となった。 前年度よりも鑑賞者が393人増えたとともに、開催した団体から好評であり、再度実施したいという要望が多く、満足度が高いといえる。	【さぬき市】今年度は行っていない。 【東かがわ市】身近に芸術に触れる機会となった。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【綾川町】実績なし。
	14	文化芸術鑑賞等の機会の提供	劇団四季ミュージカル鑑賞者数	児童、先生を合わせた鑑賞者数(連携市町分含む)高松市と連携市町の全6年生を招待しているため、児童数と引率教員数が鑑賞者数となる。平成25年～27年の平均鑑賞者数を基に目標比を算出する。(H25:4,985人、H26:5,323人、H27:5,143人)	人	5,591	5,395	96.5	H26年～28年の平均鑑賞者数を基に目標値を算出する。 児童数と引率教員数の合計数がそのまま鑑賞者数となるため、その年の児童数の増減による。	A	B	C	A	A	A	A	高松市・さぬき市・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町の全6年生の児童と引率教員が参加。	【さぬき市】演目の内容が、人権教育として友情、仲間について学習できる機会であった。ストーリー中仲間の死に関する描写があったが、小学生6年生にはリアルすぎるように感じた。 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】圏内市町の小学校との連携体制ができており、毎年継続的に効果的な運営がなされている。 【小豆島町】通常の授業ではふれあうことのできない文化芸術(ミュージカル)を鑑賞することで、コミュニケーション能力及び情操教育の向上につながっている。 【三木町】鑑賞機会が少ない児童にとって、本公演は貴重な体験であり、6年生最後の思い出となり、情操教育の一助となっている。 【直島町】圏域内の小学校との連携が密にできているだけでなく、実施体制が確立されており、毎年スムーズな運営ができています。 【綾川町】町単独では、この規模の事業を実施するための十分な施設を有しておらず、管内の児童に芸術鑑賞の機会の提供をすることが難しいが、本事業により、多くの児童に芸術鑑賞の機会を提供することが可能となっているため。
			美術館学習参加校数	高松市立美術館での美術館学習(常設・特別展の鑑賞)参加校数	校	35	20	57.1	H35年度目標をH29年度目標として設定。高松市外からの訪問はなかったが、先方が交通費を負担する必要がある、あるいは移動に時間を要する等の理由によるものと思われる。	C	B	C	B	A	A	C	参加校：20校(いずれも高松市内)	【さぬき市】実績なし 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】実績なし 【小豆島町】- 【三木町】実績なし 【直島町】- 【綾川町】町単独では、この規模の事業を実施するための十分な施設を有しておらず、管内の児童に芸術鑑賞の機会の提供をすることが難しいが、本事業により、多くの児童に芸術鑑賞の機会を提供することが可能となっているため。



連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由							
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町				
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	ア	(ア) 地域医療	21	高松市民病院・塩江分院・香川診療所運営事業	紹介率 逆紹介率 (市民病院)	患者の紹介・逆紹介等の実施により、圏域の医療提供体制の充実が図られるとともに、連携町からの患者を受け入れる。	%	50 70	60 79	122 112.9	地域医療支援病院の要件である紹介率50%以上かつ逆紹介率70%以上	A			C	C	B	C	C	高松市立病院の医療機能を発揮・活用するために、当院の地域医療連携室において、患者の紹介・逆紹介等地域医療連携に取り組み、紹介率61%、逆紹介率79%となった。	【土庄町】病診連携により、連携町からの患者を受け入れやすくなることは評価できるが、紹介率、逆紹介率に関しては、連携町として評価しにくい。 【小豆島町】実績なしのため 【三木町】町立の医療機関を有せず、直接的な取り組みを行っている状況ではないことから、評価することが困難である。 【直島町】具体的な取り組みに至っていない。 【綾川町】綾上診療所は、高松市民病院へ十分に紹介できていない。		
			22	救急医療体制の確保	市民満足度における「医療体制の充実」の満足度	休日・夜間における初期及び二次救急医療体制の確保を図ることで、市民が安心して暮らすことのできる環境づくりを目指す。	%	41.5	42.7	102.9	平成28年度から毎年度0.6%ずつ上昇させ、最終年度に45.3%の目標値を設定している。 平成29年度市民満足度調査の結果において42.7%であった。	A						B	A	A	地区医師会への在宅当番医制の委託、歯科救急医療センターにおける休日・夜間歯科診療運営事業への助成、病院群輪番制病院運営事業に対する助成及び夜間急病診療所の指定管理者による運営により、休日・夜間における初期及び二次救急体制の確保を図った。	【三木町】今後も関係市町と連携し、住民が安心して医療を受けられるよう継続して支援をしていく必要がある。 【直島町】救急体制を確保するために十分な支援が行えている。 【綾川町】休日・夜間における初期及び二次救急医療体制の確保を図っていることで、住民が安心して暮らすことのできる環境づくりが確保されている。	
			23	救急艇の活用	-	-	-	-	-	-	-	-	A			A	A			C	搬送実績（平成29年暦年） 29件	【土庄町】救急艇の活用について連携していることで、救急搬送体制の強化につながっており、成果をあげているが、当町における医療従事者不足による搬送時の負担等課題がある。 【小豆島町】小豆構想区域内で定期航路の無い夜間に発生した小豆島中央病院で対応できない高度医療が必要な救急患者について、高松市との連携において実施する救急艇を用いた島外搬送で、医療連携として重要な事業である。 【直島町】具体的な取り組みに至っていない。	
			24	島しょ部（土庄町及び小豆島町）への医師派遣事業	医師派遣件数	医師の派遣に関する協定に基づく、派遣件数	件	12	12	100	高松市民病院の医師を、島しょ部である小豆島町の自治体病院に派遣した回数	A								A	A	高松市民病院の医師を、島しょ部である小豆島町の自治体病院（小豆島中央病院）に派遣し、小豆島における医療水準の維持・向上に貢献した。	【土庄町】医師の派遣に関する協定に基づく派遣が行われている。 【小豆島町】医師派遣により専門的な診療が行えた。
			25	遠隔医療ネットワークを使った連携	医療情報公開実績件数（H28からの累計）	患者さんの同意に基づき、参加医療機関からの求めに応じた診療情報（画像・カルテ等）の公開件数 年50件、H28～H35までの8か年の累計	件	50	116	232	参加医療機関及びH28の実績を踏まえた目標設定に対し、開業医訪問等時に必要に応じてK-MIXの利用促進を図ったことにより実績は目標を上回った。	A	B		A	C	B			B	かかりつけ医との情報共有を図ることにより、地域における高度かつ効率的な医療の提供に貢献した。	【さぬき市】医療機関の情報連携という構想と運用等手続きに乖離があるため、利用件数は低調である。 【土庄町】救急対応時の手続きの簡素化により、他の医療機関の医療情報を参照するという連携は強化され、一定の成果は上がっている。 【小豆島町】公開件数把握できていないため、評価できない。 【三木町】町立の医療機関を有せず、直接的な取り組みを行っている状況ではないことから、評価することが困難である。 【綾川町】ネットワークの利用がなかった。	
26	「在宅療養後方支援病院」の施設基準取得及び「地域包括ケア病棟」設置事業	-	-	-	-	-	-	-	平成29年10月から「地域包括ケア病棟」を開設	A	B		C	C	B			D	病床稼働率 63.1% ※H29.10月～H30.3月	【さぬき市】高松市民病院とさぬき市民病院では圏域も違う上に、病院同士の機能面から考えても当該患者の紹介は極めて乏しい。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】高松市民病院の実績のため評価できない 【三木町】- 【綾川町】-			



連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由			
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町
(ウ) 福祉	33	介護認定審査会 事業	介護認定審査会 開催件数	原則週2回開催される介護 認定審査会開催の開催 数（グループ毎の合計）	回	804	773	96.1	目標設定方法：認定審査会の年間開催予 定数を目標値とする。 実績の理由：審査案件数が少ない週は認 定審査会が不開催となる合議体も発生する ため、目標値を下回った。	A					A	A	A	3町から委託された審査案件全てを認定審 査会にて審査・判定した。 11月末に1市3町の連絡会を実施し、意見 交換等の情報共有を図った。	【三木町】「介護認定審査会業務の事務委託に関する規約」に基づき、十分な取組が行われてい る。 【直島町】介護認定審査会業務の連携について、体制も確保されており、十分な取組が行えてい る。 【綾川町】介護認定審査会を委託することによって、事務の効率化、費用の低減に寄与していると 思われる。
	34	自立支援協議会 運営事業	全体会開催回数	定期的な情報共有を図ると ともに、検討する場として開 催している、全体会開催回 数を成果指標とする。	回	2	2	100	例年通り年2回開催を継続。	A					A	A		・障害福祉施策についての周知を行った。 ・関係機関の連携強化及び相談支援の充 実・強化を図るための研修等を行った。 ・専門部会等の運営を行った。 ・その他の相談支援充実・強化を図るための 事業を行った。	【三木町】高松圏域自立支援協議会が行う相談支援の充実、強化を図るための研修等につい て、体制も確保されており、十分な取組が行われている。 【直島町】自立支援協議会運営業務の連携について、体制も確保されており、十分な取組が行え ている。
	35	障害支援区分等 審査会業務の連 携	審査会開催回数	原則毎週水曜日に審査会 を開催していることから、開 催回数を成果指標とする。	回	50	46	92	年間最大50回の開催を継続。 H29年度は案件数が少ない回があり、開催を 4回見送った。	A					A	A	A	・審査会を46回開催し、市と3町の審査につ いて、引き続き連携した。 ・審査件数：高松市604件、三木町61件、 直島町9件、綾川町41件	【三木町】審査会業務において、体制も確保されており、十分な取組が行われている。 【直島町】障害程度区分等審査会業務の連携について、体制も確保されており、十分な取組が行 えている。 【綾川町】開催回数の確保ができることにより、安定したサービスの提供ができています。また事務の効 率化ができており、貢献度が非常に大きい。
	36	ファミリー・サポート ・センター事業	ファミリー・サポ ート・センター事業 利用件数	ファミリー・サポート・センター 事業利用件数	件	6,700	7,413	110.6	【H29年度の目標設定方法】 平成28年度の実績や平成29年度半ばま での実績を踏まえて、29年度重点取組事業計 画書（示達用）で目標値が修正された。 【目標値に対する実績の理由】 当初、援助活動件数見込5,700件だっ たが、上記のとおり、6,700件と修正したが、子 どもの習い事等の場合の援助などの利用が増加 し、それを上回る件数となった。	A	B				B	B		援助活動件数：7,413件 会員養成講座：年間計3回開催、会員 スキルアップ講座：年2回開催、会員交流 会：年2回開催 ファミサポ通信：22・23号発行	【さぬき市】まかせて会員養成講座を高松市で受講し、さぬき市で登録した会員：0名 平成29年度においては広域連携に該当する利用はなかった。 【三木町】利用件数は増えている。送迎の利用が特に増えており、今後も増え続けると思われる。 【綾川町】利用が必要な保護者に対して、啓発をしているが、まかせて会員の登録はあるが、利用 希望にそわないことがあったり、制度についての理解が少なかったりすることがある。保護者にとって利 用しやすい制度となるための、更なる工夫が必要と考える。また、まかせて会員の養成方法について も工夫が必要と考える。
(ク) 教育・文 化・スポー ツ	37	移動図書館巡回 事業	貸出冊数	直島町の巡回ステーション2 か所における年間図書貸出 冊数	冊	7,000	7,148	102.1	ビジョン最終年度の目標値を前倒しで平成35 年度目標値としている。直島町広報紙等によ る、移動図書館巡回日程等の周知効果が表 れてきていると考えられる。	A					A		毎月1回、移動図書館車が直島町内の2ス テーションを巡回し、図書館サービスを提供し た。	【直島町】毎月町内2箇所まで移動図書館巡回事業を実施しており、当町は図書館がないことから、 利用者から大変喜ばれている。	
	38	読書推進ボラン ティア養成事業	講座受講者数	読書推進に係るボラン ティア養成講座の年間受講者数	人	150	149	99.3	講座の各定員の合計人数を目標値としてい る。絵本の読み聞かせやブックスタートを行うボ ランティア向け講座のほか、障がい者支援につ いての講座を2回実施し、計4回講座を行っ たため、H28年度より参加者は増加してい る。	B	C	B	C	B	C	C	B	絵本の読み聞かせやブックスタートを行うボラ ンティアのほか、対面朗読ボランティアなどの技術 の習得や向上を図るため、連携市町のボラン ティア（グループ）も参加対象として、講座を 計4回実施し、149名の参加があった。	【さぬき市】今年度は行っていない。 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】「ブックスタートボランティアについて」の回に参加したのは図書館職員であり、ボラン ティアの方が講座に参加した実績がないので評価できない。 【三木町】講座や研修会が開催されていない 【直島町】具体的な取り組みに至っていない。 【綾川町】事業の実績がないため。

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由			
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町
	39	帰国児童等支援事業	指導を行った件数／指導が必要な帰国児童等	帰国児童等への日本語指導等対応率	%	100	100	100	帰国児童等への日本語指導等に十分に対応でき、児童生徒の円滑な学校生活や学習支援に寄与した。	A						C	B	近隣自治体と要支援者情報等について情報を共有し、支援が必要な児童生徒の対応に生かした。また、近隣自治体にも情報提供を行った。	【三木町】支援の実績がないため 【綾川町】実績がないものの、支援体制が整っている。
	39	特別支援教育推進連携事業	相談訪問件数／相談希望校数	相談希望校等への相談訪問率	%	100	100	100	障がいの種類が複雑になってきており、支援を適正に行う体制整備を行う必要があるなかで、希望した学校にはすべて対応できた。	A			B	B	B		B	高松市が中心となって高松広域連携推進協議会を運営し、三木町と連携を図った。	【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】実施できていないので、基本的には評価できない。 【三木町】就学前、小中学校の希望する保護者や児童生徒等を対象に検査や教育相談を実施できたため。 【綾川町】実績はないものの、支援体制が整っている。
	40	こども未来館学習体験事業	こども未来館学習参加校数	こども未来館学習参加校数	校	50	54	108.0	【H29年度の目標設定方法】 高松市内の小学校と瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の小学校を合わせて、50校としていた。 【目標値に対する実績の理由】 高松市内の小学校48校と瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の小学校6校を合わせて54校が実施した。	A	B	A	A	A	A	B	こども未来館学習運営委員会開催 こども未来館学習事前研修会開催 こども未来館学習実施	【さぬき市】科学実験体験は、酸素や二酸化炭素を使ったの実験で、なかなか体験のできない実験が興味深かった。 平和学習では、高松空襲の様子についての説明があったが、歴史を未習の小学4年生には難しいと感じた。 【土庄町】町内の小学校の4年生が体験学習に参加した。 【小豆島町】未来館学習に参加することによって、体験して学ぶ・自主的に学ぶことにより、児童の成長につながっている。 【三木町】未来館学習で充実した体験活動ができたため。 【直島町】平成30年度からの参加に向けて取り掛かったばかりであるが、実施体制も確立されている。 【綾川町】町単独では、同様の施設を有しておらず、管内の児童、幼児に体験の機会の提供をすることが難しいが、本施設により、多くの児童、幼児に体験の機会を提供することが可能となっているため。	
	41	史跡・遺跡の調査研究及び発信	講座等参加者数	圏域内の史跡・遺跡の調査研究について、講座等でその成果を紹介し、情報発信を連携して行う。その参加者数	人	4,000	4,241	106.0	講座等を年間通じて実施したほか、出前講座等で遺跡の調査研究の情報発信を分かりやすいように工夫したため。	A	B	A	B					発掘調査現場の見学会の実施 2回実施 一般向けの見学会及び講演会 61回実施 学校向けの見学会・出前講座 8回実施	【さぬき市】今年度は行っていない。 【東かがわ市】圏域自治体にチラシを配布したことにより、市外来訪者が増加した。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。
	42	高松市埋蔵文化財センターの運営	施設利用者数	埋蔵文化財の調査技術、調査成果等に関する情報交換を行うとともに、埋蔵文化財の情報発信事業（展示等）のための資料の相互貸借を行う。その利用者数	人	4,000	4,272	106.8	企画展や体験講座を実施して、市民がイベントに参加していただく機会を多く設けたため。	A	B	C	C	B			B	企画展の開催 2回実施 夏休み講座の開催 4回実施 体験講座 10回実施	【さぬき市】今年度は行っていない。 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】調査成果物の交換については、従来実施しているが、県内関係部署間で行っているものなので、中枢連携都市圏構想外のものである。 その他資料貸借等については実施していないため、評価できない 【綾川町】実績なし。
	43	中学校総合体育大会等の連携	中学校総合体育大会等における実施競技数	中学校総合体育大会・中学校新人体育大会における実施競技数に、中学校駅伝競走大会を加えた競技数	競技	18	18	100	目標設定方法の理由：例年実施している競技の大会を継続して開催することにより、体力・運動能力の向上や相互の友情を深めるとともに、教職員の体育指導の資質を高めるなど、体育の充実発展と心身ともに健全な児童生徒の育成を図ることができる。 目標値に対する実績の理由：例年どおりの競技数の大会を開催し、部活動等での練習の成果を発揮することができた。	A						A	B	高松地区総合体育大会、高松地区新人体育大会及び高松地区駅伝競走大会の開催	【三木町】競技力の向上が図られるなど、事業の成果が認められるため。 【直島町】事業について一定の成果が認められる。



連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由			
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町
	50	男女共同参画センター学習研修事業	学習研修事業参加者数	学習研修事業に参加することによって、男女共同参画に関する意識が啓発される可能性が高いため。	人	3,850	3,496	90.8	過去の実績から目標を設定しており、平成29年度においては、目標に達することはできなかったが、平成28年度実績を上回ることができた。	B			B	B			B	男女共同参画に対する理解を深めるため、男女共同参画センターにおいて、各種セミナー・講座を実施した。 ・学習研修事業（全64回） ・男女が共に活躍できる社会づくり講座（5回） ・参画センター出前セミナー（9回） など	【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】具体的な成果が把握できていないので評価できない。 【綾川町】高松市と協議して、連携を進めていく。
(カ) 災害対策	51	災害時相互応援協定	-	-	-	-	-	-	-	A	A	A	A	A	A	A	A	圏域市町に大規模な災害が発生していないため、実績はないが、平常時から連携を図り、発生時に的確に対応できるよう備えた。	【さぬき市】災害時等における相互応援協定であり、事業が発生していないことから実績なしとしている。取組み自体は必要なものであると考えられる。 【東かがわ市】県内全ての市町と応援協定を締結済みであり、相互応援協定の必要性を考える必要がある 【土庄町】体制は確保されているが、実際に災害が発生した際、各連携市町において相互応援が素早く行えるようしておく必要がある。 【小豆島町】体制は確保されているが、実際に災害が発生した際、各連携市町において相互応援が素早く伝わるようしておく必要がある。 【三木町】大規模災害時に備え、圏域市町間で応援体制を築くことにより、効率的かつ効果的に物資・労力等の受入・提供が可能となった。 【直島町】協定の継続は不可欠であり、継続は達成された。 【綾川町】協定が締結できていないが、応援協定が締結できれば妥当性、有効性とも評価できる。
	52	香川県消防相互応援協定	-	-	-	-	-	-	-	A	A	A	A	A	A	A	A	消防相互応援体制を維持し、不測の事態に備えた。 実績なし。	【さぬき市】災害時等における相互応援協定であり、事業が発生していないことから実績なしとしている。取組み自体は必要なものであると考えられる。 【東かがわ市】県内全ての市町と応援協定を締結済みであり、相互応援協定の必要性を考える必要がある 【土庄町】体制は確保されているが、実際に災害が発生した際、各連携市町において相互応援が素早く行えるようしておく必要がある。 【小豆島町】体制は確保されているが、実際に災害が発生した際、各連携市町において相互応援が素早く伝わるようしておく必要がある。 【三木町】応援要請の方法や、応援隊派遣体制などが明記されたことにより、県内市町及び一部事務組合の相互応援体制に寄与した。 【直島町】協定の継続は不可欠であり、継続は達成された。 【綾川町】大規模災害等発生時には妥当性、有効性とも評価できる
	53	高松空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定	-	-	-	-	-	-	-	A					A	A		消火救難活動体制を維持し、緊急対応に備えた。 実績なし	【三木町】関係市町の消防機関が協定に基づき合同訓練を実施することにより、消火救難活動の強化に寄与した。 【綾川町】高松空港や圏域における航空機災害発生時には妥当性、有効性とも評価できる
	54	消防業務の事務委託	-	-	-	-	-	-	-	A					A	A		受託町における消防行政を円滑に実施するとともに、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進した。 建物火災：11件（平成29年暦年）	【三木町】消防・救急活動の円滑化、迅速化に貢献し、地域防災に寄与した。 【綾川町】三木町・綾川町・高松市消防業務の医務委託に関する規約に基づき、事業が実施できている。
	55	地域防災対策事業	圏域市町との防災行政無線等を活用した通信訓練を行う連携市町数	災害時の通信方法の確認のため、防災行政無線等を活用した通信訓練を行い、相互の応援要請や被害状況等の把握を行う。	自治体	2	1	50	目標設定方法：圏域7市町と、災害時の通信方法の確認するため、計画的に対応自治体数を1自治体増やす。 実績の理由：自治体数を増やすことは出来なかったが、直島町と相互の被害状況等の把握のために通信訓練を実施した。	A						B		直島町と防災行政無線を活用して、相互の被害状況等の把握するための通信訓練を実施し、操作方法等を確認することができた。	【直島町】圏域住民のために必要であるが、十分な成果はあがっていない。

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）					連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由				
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町			小 豆 島 町	三 木 町	直 島 町	綾 川 町
(*) 環境	56	一般廃棄物の処理・処分に関する業務	-	-	-	-	-	-	-	A							綾川町から委託を受け、西部クリーンセンターにおいて、綾川町の区域から排出される一般廃棄物4,969 t（し尿及び浄化槽汚泥を除く。）の中間処理（焼却、破碎）を行った。また、高松市国分寺地区から排出される一般廃棄物を中間処理した後に生じる残さの埋立処分に関する業務を綾川町に委託し、焼却灰2,161 tを綾川町西分処分場へ搬出した。	【綾川町】綾川町一般廃棄物処理基本計画に基づいて処理を行っており妥当性、有効性ともに問題はない。	
	57	し尿処理に関する業務	-	-	-	-	-	-	B				A	A			三木町・綾川町から排出された、し尿及び浄化槽汚泥の処理を行った。また、本市と綾川町が共有している国分寺町し尿貯留槽の管理を綾川町に委託した。 処理実績 65,143kl (内訳) し尿 浄化槽汚泥 計 三木町 2,461kl 6,048kl 8,509kl 綾川町 1,447kl 3,906kl 5,353kl 高松市 12,339kl 38,942kl 51,281kl 計 16,247kl 48,896kl 65,143kl	【三木町】事業に係る体制も整備されており、十分な成果があると考えられる。 【綾川町】十分な成果があると考えられる。	
	58	環境学習等推進事業	環境学習講座参加者数	環境学習講座（環境ワークショップ）、出前講座及び自然観察体験事業の参加者数の合計	人	2,220	1,707	76.9	環境保全推進課分室の閉所により環境学習講座実施回数は減少したが、こども未来館や瓦町 F L A G などの新たな施設における講座においても圏内からの参加があった。	B	C	B	C	B	C	B	環境学習講座の参加応募条件を「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏内に在住、又は通勤・通学する方」として、広報誌やホームページで参加者を募った。	【さぬき市】取組実績がないため、高松市や他の先進地と取組状況や成果について情報連携を図る必要がある。 【東かがわ市】ごみの減量化の出前講座や緑のカーテンの広報を行ったが、圏内での連携には至っていない。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】実績なしのため 【三木町】取り組みがないため評価なし。 【直島町】自然探検は目標どおり達成でき、一定の成果があった。定員制ということもあり、参加者の大半を町内児童がしめため、中心市での周知・啓発による圏内での児童の参加についてはわずかとなった。 【綾川町】実績がない。	
	59	環境負荷の少ない自動車の普及促進	市内における電気自動車保有台数	環境に負荷の少ない電気自動車を多くの市民に周知することにより、自動車の新規購入や買換えの際における電気自動車購入の意識付けを行う。また、市が設置した急速充電器の運営を行うとともに、市内の充電設備の情報提供を行うことなどにより、電気自動車の普及を図る。	台	392	318	81.1	過去の電気自動車保有台数（実績）の平均増加率と同程度の増加率が今後も継続するものとして目標値を算出 達成率は目標値の81%で、保有台数増加率は全国的にも伸び悩み傾向にあるが、保有台数は毎年着実に増加している。	B	C	B	C	C	C	B	B	公用車に電気自動車を1台導入し（全12台）、車体をラッピングして市内を走らせ、走行実績に伴う温室効果ガス削減量等の情報をホームページで発信した（ホームページ更新12回）。また、市が設置した市内3か所にある道の駅の急速充電器の情報発信や、環境展及びたかまつCOOL CHOICEキャンペーン普及啓発パネル展でのパネル展示を行い、電気自動車の普及を図った。	【さぬき市】取組実績がないため、高松市や他の先進地と取組状況や成果について情報連携を図る必要がある。 【東かがわ市】実績なし 【土庄町】環境負荷の少ない自動車が少しずつ増えてきているが、もっと住民意識を高め、環境負荷軽減につなげていく必要がある。 【小豆島町】圏内での情報交換が行われた 【三木町】取り組みがないため評価なし。 【直島町】なおしま環境フェスタ2017での展示が行えず、普及促進活動の取り組みに至っていない。 【綾川町】実績がない。
	60	小型家電等リサイクル推進事業	年間回収量	市が実施するボックス回収・ピックアップ回収・イベント回収により回収された使用済小型家電の総量	トン	17	13	75.7	市民への周知・啓発活動を行い、使用済小型家電の回収量増加と循環型社会の意識の啓発につなげる。 回収目標については、H35年度の目標を8トン（市民一人当たり約20g）と設定し、その途中段階であるH29年度の目標は6トン（市民一人当たり約15g）と設定している。 H29年度は市民への周知・啓発活動に努めたことにより回収量が増加した。	C	B	B	C	C	B	A	B	・市内22か所でのボックス回収、ピックアップ回収、イベント時の回収を実施した。 ・「小型家電等リサイクル推進事業担当課長会」を開催し、事業結果の検証と今後の取り組みを報告した。 ・H29年度より「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加し、スポーツイベント等でのイベント回収を実施した。	【さぬき市】回収量が前年より下回った。小型家電等リサイクルに対する市民の認知度をさらに向上させる必要がある。 【東かがわ市】担当者会議で情報交換しているが、自治体ごとの買値が異なるため、相互連携には至っていない。 【土庄町】少しずつ回収量が増えているが、さらなる回収量の増加が必要である。 【小豆島町】圏内での情報交換が行われた 【三木町】回収は増えつつあり、認知率は向上していると思われる。 しかし、依然として対象品目以外の品目も多数回収されており、更なる周知が必要である。 【直島町】町内の小型家電は全てクリーンセンターへ持ち込まれ、そこでピックアップ回収しているため。 【綾川町】小型家電のリサイクルに役立っている。
	61	不法投棄対策事業の推進	不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦参加者数	各市町が連携して地域住民及びボランティア参加のクリーン作戦を実施することで、地域の環境美化と不法投棄撲滅に対する意識啓発を図る。	人	7,000	5,520	78.9	毎年行っている7か所のクリーン作戦を目標値として設置。今年度の実績は、屋島クリーン大作戦において清掃箇所の一部が台風により通行止めとなったことやイノシシ対策として地元のボランティアの人数を意図的に減らしたため、参加者が減少した。	B	B	A	B	A	B	B	A	毎年行っている7か所のクリーン作戦を予定通り実施した。	【さぬき市】参加者数は前年並みである。毎年ある程度の不法投棄の報告があるので、不法投棄件数を減少させていくために、さらなる環境美化への意識啓発を行う必要がある。 【東かがわ市】本市独自の活動となっており、相互連携には至っていない。 【土庄町】継続して清掃活動できている点は評価できる。しかしながら、依然として不法投棄はあるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【小豆島町】圏内での情報交換が行われた 【三木町】「高松・三木出合いふれあいクリーン作戦」については、一定の参加者もあって定着しており、開催場所を何年か毎に変更しながら、不法投棄防止を周知していく。 【直島町】7/15に町内一斉清掃「ごみ0クリーンデー」を実施できた。 また、重点海岸についても漂着物の回収を実施できた。 【綾川町】環境美化と不法投棄撲滅の意識啓発に役立っている。

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）							連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由		
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町	三 木 町			直 島 町	綾 川 町
イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	(7) 地域公共交通	62	ICカードを利用した公共交通利用促進事業【再掲】	(再掲事業)															
		63	コミバス等へのIruCa導入事業に参加した自治体数	取組の目的は、ICカード「IruCa」による各種割引サービスの適用を受けることができるよう、コミバスにシステムを導入し、利便性の向上を図るものであり、施策の参加自治体数を増やす。	自治体	1	1	100	29年度は、連携自治体に対し、引き続き事業の有効性等について周知することにより、事業の有効性を共有し、事業を拡大する。毎年1自治体追加することを目標として設定した。	A	B	C	A	B	B	29年度は、連携自治体に対し、引き続き事業の有効性等について周知することにより、事業の有効性を共有することにより、事業の拡大に努めた。9月から綾川町において、ゴールドIruCaを活用した高齢者公共交通運賃支援が開始された。	【さぬき市】取組自体の妥当性や有効性はあると思われるが、実施していないため。 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】ことでの乗り継ぎ等に係る割引サービスシステムの導入については、費用負担に部分等で課題があるため。 【三木町】取組がないため評価なし。 【綾川町】事業実施に向けて十分協議ができています。		
		65	橋りょう改築修繕事業	-	-	-	-	道路メンテナンス会議を通して、点検状況の報告を行い、圏域全体での情報共有を図れた。	B	A	A	A	C	B	C	B	橋りょう長寿命化修繕計画について、香川県内の道路管理者等で構成される「道路メンテナンス会議」を通して点検状況の報告を行い、圏域全体での情報共有を図った。	【さぬき市】取組実績がないため 【東かがわ市】橋りょう長寿命化修繕計画に基づき計画的な維持管理ができていますが、圏域の連携には至っていない。 【土庄町】今後、案件があれば高松市と協議等を行い、情報共有等連携を図っていくため。 【小豆島町】実績なしのため 【三木町】高松市境には、町道橋がなく、町道橋以外の市町境の橋については不明。 さぬき市境には、3橋町道橋があり、点検等の費用の一部を負担することなどで、事業の連携を図っている。29年度は実績なし。 【直島町】具体的な取り組みに至っていない。 【綾川町】行政区境界における橋梁修繕については、情報共有等が重要であると考えため	
		66	道路新設改良事業	-	-	-	-	行政区境界について、事業の必要が生じなかった	B	A	A	B	B	行政区境界での生活道路（市道）の新設改良工事について、該当がなかった。	【さぬき市】取組実績がないため 【土庄町】今後、案件があれば高松市と協議等を行い、情報共有等連携を図っていくため。 【三木町】高松市内の道路の新設改良事業の情報提供は特になし。また、行政区間の事業も特になし。 【綾川町】行政区境界における道路拡幅事業については、情報共有等が重要であると考えため				
(7) 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消	67	ブランド農産物育成支援事業【再掲】	(再掲事業)																
	(8) 地域内外の住民との交流・移住促進	68	自然体験等を通じた住民の交流の促進	瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ポータルサイトへのアクセス数	イベント情報を掲載する瀬戸・高松広域連携中枢都市圏のホームページのアクセス数	件	0	2,178	-	H29年度実績（訪問者数）をベースに、圏域人口（ビジョン目標）の1%を最終年度の目標とし、暫増を目標とする。	A	B	B	C	B	B	H28年度に構築した、ポータルサイトについて、適切な保守・管理を行いながら、都市圏ビジョンに基づく取組や本市及び連携市町の魅力を、適宜、発信した。	【さぬき市】雨滝自然科学館において夏休み期間に企画展や親子教室を実施し、県内の小・中学校にチラシを配布して周知している。 【東かがわ市】市内団体の独自の取組を支援しているが、圏域内での連携が十分ではなかった 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】自然体験を通じてその土地の文化等も学ぶことができ、交流できるため。 【三木町】取り組みがないため評価なし。 【綾川町】瀬戸・高松広域連携中枢都市圏への情報提供が十分にできていない。	
(8) 地域内外の住民との交流・移住促進	69	移住・交流促進事業	圏域市町全体の社会増減	移住促進策の実施に伴う、圏域全体での社会増減数	人	859	815	94.9	過去の実績等を踏まえて目標を設定。県とも連携しながら、圏域の魅力発信や家賃補助事業など、種々、取り組みを行ったが、圏域内の半数を超える市町で社会減となる結果となり、目標を達成することができなかった。	B	B	B	B	A	B	C	B	前年度に引き続き、香川県の補助金を活用して、各市町で移住者を対象とする民間賃貸住宅家賃等の補助事業を実施するとともに、圏域独自の取組について、継続して担当者間での協議を行った。	【さぬき市】実施していないため。 【東かがわ市】移住者への金銭的支援や東京・大阪での移住フェア、東讃地区での移住者交流会など実施しているが、圏域内での連携が十分ではなかった 【土庄町】移住促進の効果が出ている。 【小豆島町】連携して取り組むことで、地域全体の魅力を高めることができる。フェア等合同で実施することで集客力を高めることができる。 【三木町】引き続き、移住フェアへの参加・移住者交流会へ参加し、圏域内のPR活動を行う。 【直島町】圏域内での取り組みについて、具体的な取り組みがないため。 【綾川町】各市町での取組が主になっているので更なる連携が必要である。

連携協約項目	頁	事業（取組）名	KPI（成果目標）						連携市町評価						H29年度 高松市取組実績	連携市町の評価の理由			
			KPI	KPI説明	単 位	29年度 目標	29年度 実績	達成 率	H29年度の目標設定方法及び目標値 に対する実績の理由	高 松 市	さ ぬ き 市	東 か が わ 市	土 庄 町	小 豆 島 町			三 木 町	直 島 町	綾 川 町
ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	70	人材育成事業、合同研修等の実施	合同研修の開催回数	合同研修の機会を増やし、圏域自治体職員の能力向上及び市町域をまたいだ交流や連携を図るため。	回	5	4	80.0	人材の育成・交流及び圏域のマネジメント能力の向上を図ることができる研修を合同で実施する。H29年度については、業務改善能力向上研修の合同研修を見送ったことに伴い、目標値を下回った。	B	B	A	B	A	A	B	A	実践的政策形成能力を高めるための研修を始め、行政環境の変化に対応できる幅広い視野を養うための教養講演会を合同で実施し、圏域内市町職員の能力・資質の向上を図った。 【開催回数】・政策形成能力向上研修 1回 ・OJT研修 1回 ・政策評価能力向上研修 1回 ・教養講演会 1回	【さぬき市】各研修に2～4日程度要し、参加者の負担もあり、全ての研修には参加できていない。今後も研修への参加について周知する必要がある。 【東かがわ市】職員の能力、意識向上や交流のきっかけとなった。また、合同研修により、他自治体職員と交流できる機会となった。 【土庄町】職員の能力・意識向上が図れ、交流のきっかけにもなった。 【小豆島町】職員の能力向上につながり有意義である。受講生の感想も好評である。 【三木町】他市町職員との交流を深め、職員のマネジメント能力の向上につながっている。 【直島町】具体的な内容に触れることができ、参考になったため。 【綾川町】職員の能力・意識向上が図れ、交流のきっかけにもなった。
	71	地域コミュニティ人材養成事業	講演会・講習会の参加者数	地域のリーダー養成を目的として実施している人材養成事業の参加者が増加することで、地域コミュニティの自立と活性化が図られる。	人	350	380	108.6	前年度と事業形態に変更がないため、前年度目標値及び実績を基に設定。各地域での取りまとめを行っているコミュニティ協議会に対し、機会を捉えて講演内容等の周知を行い、参加意欲を喚起した。	B	B	B	C	B	B	B	B	平成29年度高松市地域コミュニティ人材養成事業 (1)日時 平成30年2月17日（土） (2)場所 高松テルサ（510人収容可能） (3)講師 高崎経済大学 教授 櫻井常矢 (4)参加者380名（うち圏域市町参加者2名）	【さぬき市】開催回数については、前年と同様であるが、出席者数については、前年を下回った。開催曜日、時間等検討を要する。 【東かがわ市】地域コミュニティ活動の人材育成につながった 【土庄町】連携事業の実施にまで至っていない。 【小豆島町】取り組み実績なし 【三木町】先進地事例等の報告により、地域コミュニティ活動等に関する方の意識を高められる点において一定の評価ができる。 【直島町】具体的な内容に触れることができ、参考になったため。 【綾川町】事業を十分に活用できていないが人材養成の観点から有効であるとする。